

道の駅設置検討協議会 第5回会議要旨

日 時	平成28年8月8日（月）午後2時00分～4時00分
場 所	前橋市役所 11階南会議室
出 席 者	<p>■協議会委員： 都丸会長、小暮副会長、植木委員、中村委員、萩原委員、関根委員、平形委員、狩野委員、高坂委員、相澤委員、浪川委員、小林委員、南委員、圓岡委員、湯川委員、飯塚委員、伊能委員、長谷川委員、角田勉委員、兼本委員、角田雄二委員 代理：藤野委員（堀越氏）、中島委員（住谷氏） 欠席：青木委員、韓委員</p> <p>■オブザーバー： 国土交通省高崎河川国道事務所 永江副所長、 群馬県道路整備課道路企画室 眞庭室長、 前橋市 高梨文化スポーツ観光部長、岩佐産業経済部長、金井農政部長、加藤建設部長 代理：倉嶋副市長（戸塚公営企業管理者）、金井農政部長（矢嶋農林課長） 欠席：中西都市計画部長</p> <p>■事務局： （政策部）藤井部長、（政策推進課）谷内田課長、下坪室長、川崎副主幹、清水主任</p>
開催趣旨	・道の駅整備の進め方について
藤井政策部長 都丸会長 道の駅推進室	<p>第1部 勉強会 講演 演題：運営事業者に求められるもの 講師：有限会社ベネット 代表取締役 青木隆夫氏</p> <p>第2部 会議 1 開会 2 会長挨拶 <進行：都丸会長></p> <p>3 議事 <道の駅整備の進め方について説明> ・資料1、2</p>

都丸会長	<p>以前より、協議会で早期に運営事業者を決めたほうがよいとのご意見がありましたが、今回、前橋市で検討した結果、H30年度に予定していた運営事業者の一般公募をH28年度に前倒しして行う計画となっています。また、事業者公募を行う前に、サウンディング型市場調査を行い公募条件などを決めるということです。今まで、説明されてきた手順やスケジュールが大きく変わっております。本日、このことについて、委員の皆様からご意見を頂いて、次に進めたいという事が大きなテーマだと思っております。今の説明内容等に関して、賛否、ご意見、ご質問等ございましたら、お願い致します。</p>
浪川委員	<p>これから事業者を選定するという事ですが、整備の方法はPFIみたいなイメージで理解しておけばよいでしょうか。道の駅を整備するにあたり、事業者と一緒に計画を作成し、資金調達を含めて提案してもらおうのでしょうか。</p>
政策推進課長	<p>今までの公共施設整備は行政のみで施設内容、施設規模、整備運営手法などの計画を作成し、そこから事業者を公募するというやり方でした。しかし、本当によいものを作るためには、以前から皆様のご意見にあったとおり、民間の意見を受け止めそれを計画に反映させる必要があると考え、事業者公募を前倒しすることにしました。また、計画段階で民間の知恵や意向を取り入れることにより、税金だけで、全て整備するのではなく、民間資金の導入も可能ではないかと考えています。浪川委員からのご質問についてですが、今回行う手法は、手続きとして正確にはPFIではありませんが、民間の資金を導入するという事では、それに近いものであると考えています。しかし、今回の手法は計画・設計・運営を一緒に公募するもので、専門家に相談しながら計画しているところですが、全国的にあまり例のないやり方であるため、公募の前に実施するサウンディング型市場調査により、詳細を決めていきたいと考えています。また、公募前に、サウンディング結果等を踏まえ、公募条件等について、協議会でご意見を伺いたいと思っています。</p>
都丸会長	<p>このやり方で進めた場合、全体の経営ではなく、その中の店舗として、参加したいという事業者も多数いると思いますが、そういう方の意見もサウンディングの中で伺うという理解でよろしいでしょうか。</p>
政策推進課長	<p>きちっと言葉として定義していませんが、道の駅全部を開発するのが開発者として、その中で、事業を行う方が事業者だとすると、開発者は開発者で、事業者は事業者でサウンディングを行い、どの様な条件であれば、参画できるかという事を確認しながら進めて行きたいと思っています。また、参画を希望する事業者のリストを作り、開発者とマッチングすることも必要であると思っています。</p>
長谷川委員	<p>今回、計画しているサウンディング型市場調査の募集はホームページのみの周知の予定でしょうか。昨年、前橋市では嶺小学校についてのサウンディング型</p>

<p>政策推進課長</p>	<p>市場調査を実施していると思います。素敵な取り組みだと思いましたが、参加した企業さんの範囲が少し狭かったように感じました。幅広い企業や団体を誘致するためには、ホームページだけではなく、色々な手段で告知したほうがよいと思います。また、期間についても資金繰りなどを考えた場合、少し短いように感じました。</p> <p>また、サウンディングを実施した場合、民間業者さんはそれぞれ、自分たちのコンセプトを持っていると思いますが、今までこの協議会で議論され、決定したこととどのように突合せていくのか、お話頂ければと思います。</p> <p>長谷川委員からお話頂いたように、昨年、前橋市では、廃校となった嶺小学校の利活用について、同様にサウンディング型市場調査を行っています。今までこのような公有資産の活用では、市場性や公募条件などについて、事前に水面下で調査を行い、単純に公募することが多かったのですが、嶺小学校の活用については、サウンディング型市場調査により広く民間の意見を取り入れた形で公募を行い、活用事業の選定を行っています。今回、道の駅の事業者公募においても、開発者や事業者に対してサウンディングを行うことにより、広く民間に意見を取り入れた公募条件の設定を行いたいと考えています。また、実施にあたりましては、長谷川委員のご指摘の周知方法や期間について、改めて検討したいと思います。</p>
<p>都丸会長</p>	<p>サウンディングという言葉は聞き慣れなかったのですが、長谷川委員や谷内田課長の説明でよくわかったと思います。今までは公募を行う為に水面下でやっていた事前調査をオープンに行うことにより、民間事業者の意見を広く聞き、公募条件を決めることが、この調査の趣旨であると思います。そのあたりを踏まえ、賛否や方法についてご意見を頂ければと思います。</p>
<p>圓岡委員</p>	<p>サウンディングや早期に運営事業者を選定することについては、よいことであると思います。しかし、本日の青木先生の話聞いて感じるのですが、県外の業者が指定管理者となった場合、地元の雇用が難しくなるのではないかと思います。また、規模が大きすぎると地元で手が挙げ辛いという不安もあるので、時間が掛かってしまうかもしれませんが、全体を区分けして公募するなどのことがあっても良いのではないかと思います。</p> <p>また、まだイメージが湧かない部分もあるのですが、もう少し勉強して、ここに参加している私たちが色々な人にこのことを広めていかなければならないと思います。</p>
<p>南委員</p>	<p>最初から民間に開放して意見を聞きながら計画を詰めて、事業者募集をするというかたちは、これから広く用いられるスタイルになるのではないかと思います。そのなかで、いち早く前橋市がこの方法を採用するというのは、道の駅の知名度を上げるばかりではなく、行政手法としての一つの道を開くという意味では、大いに良いのではないかと思います。行政の方へのお願いとしては、出</p>

	<p>来るだけ参加しやすく、わかりやすいかたちで、広く意見を聞いて頂きたいと思います。</p>
小林委員	<p>私は非常によい取り組みだと思います。この事業計画案公募（計画付事業予定者公募）という事は、今回選定する事業者が続けて運営に係ることになるわけなので、非常によいと思います。公募条件等については、サウンディングにより業者さん等としっかり詰めたほうがよいと思います。</p>
浪川委員	<p>私も良い取り組みではないかと思います。これから、色々な行政施設で取り入れられる、非常に先進的な取り組みになると思います。</p>
藤野委員 (代理堀越氏)	<p>サウンディング型市場調査や計画と運営を募集する事業計画案公募ということで、モデルケースとなる良い取り組みだと思います。</p>
高坂委員	<p>皆様のご意見のように、私も、このような手法で進めて行くことについては特に問題ないと思うのですが、気になるのが、土地収用法事業認定が1年送られることです。土地収用法の事業認定は用地買収などと一緒にやって行くものと思いますが、スケジュールとして無理が無いか心配に思います。地元説明会などにおいて、地権者との関係がどのようになっているかお聞かせ頂ければと思います。</p>
政策推進課長	<p>資料1にありますとおり、6月3日に、地元の方や地権者を対象とした説明会を行いました。その中では、表だって大きな反対はございませんでした。ただ、高坂委員からご指摘頂いた土地収用法の事業認定が、私たちも一番危惧しており、農地を取得するために、公共の施設として事業認定を受けますが、民間の収益をあげる施設がどこまで認められるかという問題がありますので、このことについて、よく県に確認しながら進めたいと思っております。</p>
狩野委員	<p>説明を聞きまして、このサウンディングについては非常によい取り組みであると思います。ただ一点、気になるのが、かなり規模の大きな事業となるなかで、収益性より地域貢献できるような企業体に委託することになった場合、サウンディング対象は「一部又は全部の実施主体となりうる法人又は法人のグループ」となっていますが、やる気のある小さな事業者を沢山集めて協議して出来上がったものが全体となるのか、全体は全体として考え、部分は部分として考えるのか、広く意見を聞きたいということはわかりますが、それをどのように集約して、計画に反映させるかがわかり辛いです。アイデアと志はあるけれど、事業への絡み方がわからないとなってしまうと思います。また、期間も短いので、そのあたりを解り易くしないと、よいアイデア、よい事業者は出てこない気がします。</p>
政策推進課長	<p>道の駅でパン屋やレストランをやりたいということは、道の駅全部を運営した</p>

	<p>いという事とまったく違うと思っています。この一部とはこのパン屋やレストランということではなく、道の駅全体の開発はしないけれど、収益のある一部の施設について、整備運営するようなものを想定しています。ただし、パン屋などの出店を希望する事業者についてももしっかり把握し、この、一部又は全部を開発したいという事業者とマッチングする必要があると思っています。</p>
平形委員	<p>説明を伺いまして、新しい試みとしてチャレンジすることは良い事かと思っておりますが、その中で、説明にあった開発者と事業者の違いが解り辛いように思います。</p>
政策推進課長	<p>言葉として定義していなかったのですが、開発者が事業者であり、パン屋をやりたいなどについては出店者という言葉に変えたほうがよいかもしれません。このサウンディングなどを通して、事業者と出店者をマッチングする作業が必要であると思っています。</p>
関根委員	<p>会議の中での要望事項として出していますが、私は以前より早期に事業者を決めたほうがよいという考えを持っていたので、事業者公募を前倒しにすることはよい取り組みであると思います。ただし、経営する立場から言うと、計画を出したあとに、条件を出されると、利益の問題などもありますので、そのあたりをサウンディングなどで早めに整理して頂きたいと思います。また、この協議会で議論されたことがどのように反映されるかという事も大事ですので、その調整も必要と思います。</p>
萩原委員	<p>成功させるためには、話題性を高くすることが必要で、そういう意味で、計画と運営を公募するという新しいやり方は、かなり話題性を持つのではないかと思います。ただ、サウンディングについては、求める人、市民たちのサウンディングも必要ではないかと思います。話題を広げ、底辺を広げながらオープンにすることによって、地元、市内、県内を湧かせ、メディアを通して県外を湧かせることになるのではないかと思います。</p> <p>先日、前橋ビジョンの発表において、会場のビジュアルと演出を観たときに、まさにこの時代だと感じました。ぜひ、この流れとうまくフュージョンさせて、前橋の新しい施設のあり方を考えて頂きたいと思います。</p> <p>また、ビジョン発表の中にもありましたが、前橋における豚肉が認知されてきていますので、是非取り組みのなかで、重要視していただけるとありがたいです。</p>
中村委員	<p>私は、長い間、商工会議所で人と物の流れを開発するような仕事をやってきました。その中で、私は近い将来起こるであろう大きな災害に対して、太平洋と日本海、東北と名古屋、大阪などを繋ぐ中間にあるこの地域において、果たすべき役割があると発言してきました。また、物流においても道の駅建設予定地の周辺は圏央部において非常に将来性があると思っております。今回実施する</p>

	<p>サウンディングにおいても、そのような観点を入れて展開していただければ有り難いと思っております。そして、今まで検討してきたこと、すなわち道の駅周辺の将来計画が無くなってしまいうことがないようにして頂きたいと思ます。</p>
<p>政策推進課長</p>	<p>これまで協議会で議論していただき、決定してきた「危機的状況に備える防災・復旧の拠点となる場」などの取組方針やテーマなどを前提として事業を進めて参りたいと思っております。特に防災については、危機的状況に備える新たなエネルギーとしての水素の使い方なども研究を進めています。何れにしても、今まで決定してきたものについては、公募の中に組み入れて進めたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。</p>
<p>植木委員</p>	<p>今まで、協議会で決定してきたことを公募の参加者にどのように徹底していくかという事が重要であると思ます。また、サウンディングについても、長谷川委員からのご指摘もありましたが、ホームページだけの告知ではなく、参加者が最大限になる努力をして頂きたいと思ます。そういった意味で、期間についても少し短いような気がします。また、この全部というものがどこまでを指すのかわからないですが、いわゆる主体となるかたの考えは非常に大事であると思ます。出来れば、この主体となる参加者と協議会で意見交換をして、より良い道の駅のかたちになるようにして頂けると有り難いと思ます。</p>
<p>小暮副会長</p>	<p>サウンディングについては、非常に良い取り組みだと感じております。しかし、その中で、色々な意見がでると思うので、それを今まで協議会の中で決めてきたこととマッチできるようなでない、不安なところもありますので、その取りまとめをしっかりとっていただきたいと思ます。</p>
<p>角田雄二委員</p>	<p>私は、南橋地区の自治会連合会の会長を長くやっていますが、地元の方は、どのような道の駅になるか非常に興味を持っています。今まで説明会をやるなかでも特に反対する地権者はいないので、できるだけ早期に事業者を決めて、整備を進めて頂ければ有り難いと思ます。</p>
<p>兼本委員</p>	<p>私も、以前より事業者を早期に決めるべきだという事を言ってきたので、このように計画が変ることに関しては賛成です。ただ、サウンディングや事業者公募について、協議会に参加しているメンバーが今、谷内田さんの話を聞きながら、内容を理解している状況なので、多分、資料だけをみた人は、内容がわからない可能性が有るのではないかと思います。一般の方や民間の方に、より沢山の御意見をもらうために、わかりやすく説明する必要があると思ます。また、他の委員からもありましたが、周知の方法や期間について、検討したほうがよいと思ます。</p>
<p>中島委員</p>	<p>本日、代理で出席させて頂いております住谷です。よろしくお願い致します。</p>

(代理住谷氏)	<p>うちの学園グループでは教育として専門学校をやっておりますが、学生から出た意見などを行事などで採用するようなことをやっております。そのなかで、突拍子もないようなアイデアが出ることはありますが、角度を変えると、非常によいものに変ることがあります。今回、サウンディングにより集めた情報については、採用されたものは公開されると思いますが、採用されなかったアイデアの活用についても検討したほうがよいと思います。</p>
角田勉委員	<p>事業者を早期に決めるという事は基本的には賛成です。ただ、心配なことが、先ほどから話が出ていますように、スケジュール的に少し厳しいと思います。前倒しにすればするほど、間口を狭くしてしまう可能性があります。また、このサウンディングにどのレベルまで内容を詰める必要があるか、具体的な指針をなるべく早く示す必要があると思います。</p> <p>サウンディングの対象者を「法人又は法人のグループ」となっていますが、個人としても参加できるような道を残して頂きたいと思います。事業者になれないのがわかっているから、話を聞く必要が無いという事ではなく、最初の出発点として、市民を巻き込んでいくような改善をしていただけたらと思います。私は法人登記をしていますが、そうではない優秀な農家も沢山いますのでよろしくお願い致します。</p>
政策推進課長	<p>今回計画していますサウンディングの良いところはアイデアレベルから意見を聞ける場所であると思っています。あくまで、事業者公募をするための、事前調査であるため、参加については資格制限なく行いたいと思います。また、アイデアと事業者をマッチングすることもサウンディングの意味であると思いますので、道の駅に出店したい方や、アイデアをお持ちの方の意見も聞きたいと思っています。</p>
長谷川委員	<p>サウンディングの内容については、説明を聞きわかりました。</p> <p>先ほど萩原委員さんから話が出ましたが、先週、「前橋ビジョン」というかたちで、前橋市の街中の計画などが発表されました。そのなかで、道の駅についての話もありましたが、今後、この道の駅をこの「前橋ビジョン」とどの様に繋げていくかということについて、お考えをお聞きしたいと思います。</p>
政策推進課長	<p>先ず「前橋ビジョン」についてご説明させていただきます。前橋市出身であるメガネのJINSの田中社長が、自身の会社経営の経験から、街づくりには理念が必要であるという考えを持ち、前橋市のビジョン作成をドイツのブランディング会社であるKMSに依頼することになりました。前橋市としてその考えに賛同し、元々前橋市として行っていた民間共創事業として田中社長と連携することとなり、今回の「前橋ビジョン」が作成されました。そして、このKMSが作成した「Where good things grow」という言葉を同じく前橋市出身の糸井重里さんが「めぶく」という言葉に置き換え、この度の発表となっております。今後、この前橋市全体のビジョンである「前橋ビジョン」をどのように活かす</p>

伊能委員	<p>かという事を議論した上で、道の駅においても、方向性などを取り入れていきたいと思っております。</p> <p>サウンディングの実施や事業スケジュールの前倒しについては非常によいと思います。私は、この道の駅計画地の地元の人間ですが、地元では地権者を含め、この道の駅を待ち望んでおります。その様な状況で、スケジュールが前倒しになることは、地域の皆さんの期待感をさらに上げていくことになると思います。そのなかで、やはり、地域から愛されるような施設として期待しておりますので、どの様な施設になるのかを早く出せるようにして頂ければと思います。</p>
飯塚委員	<p>私も以前の会議で運営に携わる方を早急に探して、会議に加わって頂いた方がうまくいくのではないという意見を申しましたが、積極的に関ってマネジメントできる能力のある方が見つければ、事業として半分は成功になるのではないかと考えています。ただ、このサウンディングという言葉は、横文字でなかなかわかり辛いと思いますので、公募においては書き方等ご配慮頂ければ有り難いと思います。</p>
湯川委員	<p>私も、他の委員さんが仰っていたように、サウンディングの参加事業者をホームページだけで募集することは心配に感じます。サウンディングを成功させるために、メディアを巻き込み、多くの参加者を集めて頂きたいと思います。ただ、サウンディング実施で1グループ30分から60分を目安に対話となっていますが、多数の参加者があつた場合は全部サウンディングするのでしょうか。どの位の参加者を想定されているのでしょうか。</p>
道の駅推進室	<p>実際まだ、具体的な想定があるわけではないので、説明会などを通して、参加者数を想定し対応したいと思います。また、サウンディング実施の周知については、ホームページ掲載のみではなく、関係団体通じた周知なども検討したいと思います。</p>
都丸会長	<p>各委員の方からサウンディング調査の実施及び事業者公募の前倒しについて、ご意見を伺い、全委員とも賛成という事になりました。ただし委員の皆さんから意見のあつたサウンディングの募集の仕方や内容について検討頂き、多くの方が参加しやすいようにしてもらいたいと思います。そして、そこから得られた意見をしっかり取りまとめて事業者公募に至って頂きたいと思います。また、これから時間との闘いになってくると思います。資料に今後の業務発注とありますが、こちらについて、事務局から説明して頂きたいと思います。</p>
道の駅推進室	<p>資料1の7をご覧ください。これから、今回、ご意見を伺いました、サウンディング型市場調査や事業予定者公募を行っていきますが、これらの実施にあたり、その支援等のためのコンサルタント業務を発注したいと考えております。発注手続きにつきましては、お盆明けを予定しており、契約については10月</p>

都丸会長	頃から3月頃までを考えております。
委員一同	異議なし。
都丸会長	それでは、本日の議題である「道の駅の進め方」についての審議は以上とさせていただきます。
	<p>4 その他（政策推進課） 次回の会議予定について説明</p>
	<p>5 閉会（藤井政策部長）</p>